

●平成 19 年度第 4 回日本生理学会教育委員会議事録

日 時：平成 20 年 3 月 24 日 10 時半～12 時半

会 場：学士会館 309 号室

出席者：松尾 理（近畿大），河合康明（鳥取大），岡田隆夫（順天堂大），石松 秀（久留米大），椎橋実智男（埼玉医大），鯉淵典之（群馬大），渋谷まさと（女子栄養大），山下俊一（日本大）（順不同）

欠席者：川上順子（東京女子医大），森田啓之（岐阜大）（順不同）

議 長：松尾 理委員長

書 記：山下俊一

1. 生理学会大会でのモデル講義

4 名の演者に 30 分ずつ講義をしてもらい、最後に慈恵会医科大学 福島統教授にコメントをいただく。群馬大学と順天堂大学の学生が十数名参加する予定である。会場で配布する資料とアンケートは事務局で 250 部用意する。終了後、演者の方々をまじえて会場近くで懇親会を行う。

2. コアカリキュラム

2 月に合宿形式で検討・編纂した一次案が冊子体として完成した。常任幹事会で配布する。今後、生理学会ホームページ等で会員の意見を募り、将来のコアカリキュラム改訂時に提出する日本生理学会の意見として集約していく。アメリカ生理学会の learning objective を引用している部分については、松尾委員長が先方に連絡して承諾を得る。このような具体的なコアカリキュラム案作成を生理学会のみならず、医学関連学会全体の流れとし、医学教育に役立てるためのアイ

ディアが検討された。

3. 生理学実習書

生理学会編「新・生理学実習書」(南江堂, 1991 年)は依然年間 400 から 650 部程度の販売実績があるが、在庫がすでに 630 部となっている。そこで、新しい測定法紹介や動物取り扱い規約等を追加する部分的改訂を行うことを決定した。具体的な改定内容について検討が行われた。

4. 閉会にあたり、松尾委員長が今期で委員長を退任するので、委員各位に謝辞を表するとともに、委員会活動を総括した。モデル講義を始め、MCQ 問題集の出版や生理学教育コアカリキュラム制定など、多彩な活動により、委員会の存在を生理学会会員諸氏にアピール出来たことを感謝した。

以上

●会員委員会活動報告

委員長：持田澄子

委 員：鍋倉淳一，神谷温之

1) 評議員退任の審査

評議員退任を希望する会員から提出された評議員退任届を審査して、退任を受理した。

2) 評議員の選考

平成 20 年度評議員候補者 28 名の選考を行ない、27

名が評議員としての資質を満たすと判断して平成 20 年度第 1 回常任幹事会に報告して、常任幹事会及び平成 20 年度総会で承認された。

(持田澄子)

●名取の階段踊り場談話会：筋肉の構造と機能のシンポジウム

「名取の階段」は筋タンパクから筋線維、そして筋組織から個体を繋ぐ研究の階段です。一昨年(2006年)11月20日に永眠した名取禮二を記念して、筋肉の構造と機能のシンポジウムを第85回日本生理学会大会の前日(2008年3月24日 月曜日)に開催しました。年度末の多忙な時期の開催でしたが、基礎医学(生理・薬理・体力)、臨床医学(整形・リハビリテーション)、理学(生物・動物・生物物理)、農学(畜産・水産)、教育学(体育)の広い分野で筋肉に深い関心を寄せながら研究・教育・開発に取り組む180人が東京医大病院臨床講堂を埋めました。名取の階段を昇り降りする50題のポスター発表と12の講演を通して分野を超えた交流が実現しました。野々村 禎昭先生からは名取先生と乗り合わせた通勤電車での楽しい会話の差し入れをいただき、懇親会まで楽しく盛り上がりました。ご参加くださった皆様、学生参加無料実現のためにご援助くださったバリアンテクノロジーズジャパンリミテッド様・(株)センダガス様・宇高 徹様、会場での飲み物をご提供くださった大塚製薬様、ほかのご好意の結晶でした。最後に以下の講演を快くお引き受けくださった講演者の皆様に感謝いたします。

- 名取禮二の哲学と科学 竹森 重(慈恵・医)
- 今も意識し続ける「名取の階段」 石渡信一(早稲

田・理工)

- スキンドファイバーから弾性タンパク質コネクチンへ 木村澄子(千葉・理)
 - 昆虫飛翔筋：その進化のしくみ 岩本裕之(SPring 8)
 - 筋線維を食べる 西呂隆徳(北海道・農)
 - 魚類筋肉の温度適応と分子機構 渡部終五(東京・農)
 - 体力科学における骨格筋研究 寺田 新(早稲田・先端科学)
 - 名取の階段と観測者 櫻沢 繁(はこだて未来・システム情報)
 - 超微少顕微操作による単一筋原線維の力学特性 山田武範(理科大・理)
 - 心筋症研究が拓いたトランスレーショナルリサーチ 森本幸生(九大・薬)
 - 萎縮筋の超微細構造変化と生理機能との関係 宇高潤(慈恵・医)
 - スキンドファイバー「踊り場」昇降でわかった細胞内構造に伴う水状態の変化 木村雅子(慈恵・医)
- 主催者：竹森 重(慈恵医大)、森本 茂(横浜国大)、小西真人(東京医大)、渡辺 賢(東京医大)

●第 85 回日本生理学会大会 感覚合同グループディナーの報告

日 時：2008年3月25日（火）19：00～21：30

会 場：ホテルリステル新宿

出席者：29名

本グループディナーは種々の感覚の研究者が交流を深める目的で開催されています。本年度のグループディナーには名誉教授から学生までの幅広い年齢層の方が出席されました。

はじめに資生堂ライフサイエンスセンターの岩渕徳郎先生に「毛髪生理に関する最近の知見と育毛剤の現状」と題する講演をしていただきました。毛髪のライフサイクルに始まって、脱毛の男女差の話、分子レベルでの毛髪生理学の話などを紹介していただきました。最後に育毛剤への応用の話では、プリン受容体が育毛に関与することが紹介され、活発な質疑討論が行われました。続く懇親会の席でも参加者と交流していただきました。

懇親会は村上 元彦先生のご発声による乾杯で始まりました。その後、食事をしながら酒田英夫 先生と恒成 隆 先生にスピーチをしていただき、さらにご

歓談いただきました。

グループディナーの席上、世話人(金田 誠)から、IUPS 感覚プログラム委員の間で合意が得られた下記の事項について提案をさせていただきました。

1. 次回の感覚グループディナーは、IUPS の参加者と合同で行い、感覚シンポジウムのシンポジストを招待する形の合同グループディナーとすること。

2. 次回は山下 勝幸先生(奈良医大)と澤井 元先生(大阪大学)に世話人をお願いすること。

3. IUPS と感覚グループディナーの連携のため、感覚シンポジウムプログラム委員代表として、金田 誠がグループディナー世話人のサポートをすること。

以上の提案が承認された後、散会となりました。

(文責、世話役：慶応義塾大学医学部生理学講座
金田 誠)

●第31回循環グループディナーの報告

第85回日本生理学会大会が平成20年3月25日より27日まで京王プラザホテルにて開催されました。その際に第31回循環グループディナーを横浜市立大学大学院医学研究科・循環制御医学講座 石川義弘を世話人として開催しました。以下のように実施いたしましたので、報告いたします。

第31回循環グループディナーの内容

日時：平成20年3月25日(火)午後7:00~9:00

会場：京王プラザホテル 4階扇の間

出席者：56名（一般32名，大学院生と学部学生9名
市大 15名）

- (1) 開会の挨拶：世話人の石川義弘教授による開会の挨拶
- (2) 第2回日本生理学会循環生理学優秀論文賞 受賞記念講演会
- (3) 第2回日本生理学会循環生理学優秀論文賞の表彰式
- (4) 姫路独協大学 上月久治先生を偲んで
- (5) 乾杯のご発生
- (6) ディナーと歓談
- (7) 新任教授のご挨拶
- (8) 各講座・研究室の紹介
- (9) 次回開催担当者のご挨拶
- (10) 閉会の挨拶：世話人の石川義弘教授による閉会の挨拶

詳細

- (1) 開会の挨拶：世話人の石川義弘教授による開会の挨拶
- (2) 第2回日本生理学会循環生理学優秀論文賞 受賞記念講演会

The Journal of Physiological Sciences 2007年第1号から2007年第6号までの1年間における循環生理学に関する論文の中から、10名の選考委員の審査(推薦)により「Head-Down Tilt Posture Attenuates Anaphylactic Hypotension in Mice and Rats」vol. 57 No. 5 pp. 269-274 が最優秀論文に選定された。

- ①石川義弘教授（第2回日本生理学会循環生理学優秀論文賞選考委員会委員長）より受賞理由の説明を行った。
- ②金沢医科大学 生理機能制御学教室の倉田康孝准教授による記念講演会の実施
- ③質疑・応答
- (3) 第2回日本生理学会循環生理学優秀論文賞の表彰式
賞状と副賞として賞金の授与を行った



- (4) 姫路独協大学 上月久治先生を偲んで
高木都教授よりお話と黙祷，プロジェクターで投影
- (5) 奈良県立医科大学 高木都教授より乾杯のご発生
- (6) ディナーと歓談
- (7) 新任教授のご挨拶
和歌山県立医科大学第二生理学 湯川和典教授より挨拶
畿央大学健康科学部看護医療学科 坂田進教授より挨拶
- (8) 各講座・研究室の紹介：名簿順に各講座・研究室の紹介や近況報告を行った
- (9) 次回開催担当者のご挨拶：
- (10) 閉会の挨拶：世話人の石川義弘教授による閉会の挨拶
世話人：横浜市立大学大学院医学研究科循環制御医学 石川義弘

●呼吸ディスカッションの会グループディナー報告

日時：2008年3月25日（火）18：30～21：00

場所：京王プラザホテル（あさひ）

参加者：30名

世話人：北 一郎（首都大・人間健康科学）

呼吸ディスカッションの会は、呼吸や呼吸に関連する生理現象について、学会では聞けないところまで率直にディスカッションできる場を設けようと始まり、今年で21回目を迎えました。今回は、これまでの動物実験を主体とした呼吸の神経性調節の話題から少し離れ、運動に関連した呼吸反応や呼吸の役割に焦点を当てた内容で2名の先生に話題を提供していただきました。招待講演では、齊藤満先生がずっと研究テーマとしてこられた運動時の筋交感神経活動と呼吸反応との対応について話されました。また、中谷康司先生には、呼吸と関連するリズム運動とセロトニン神経の関係について話題を提供していただき、いずれも熱のこもったディスカッションで、非常に充実した時間を過ごすことができました。今回は、国際生理学会中の Respiration Dinner と合同開催（予定）ということで、今後も

熱いディスカッションが継続していけるものと期待しています。

会の進行については以下のとおりです。

1. 開会の挨拶

有田秀穂先生（東邦大学医学部・教授）

2. 招待講演 「ハンドグリップ運動時の呼吸反応と交感神経活動」

齊藤満先生（豊田工業大学）

3. 食事をしながら歓談・ディスカッション

4. 話題提供 「リズム運動とセロトニン神経：呼吸に焦点を当てて」

中谷康司先生（東邦大学医学部）

5. ディスカッション

6. 次回世話人挨拶

越久仁敬先生（兵庫医科大学・教授）